

令和8年度第3回芽室町総合計画審議会評価専門部会 A-4

参加者：平岡委員、丸委員

欠席者：飯島委員（書面あり）、佐藤委員、宿谷委員

○ 2025 年度(令和7年度)施策実績評価について

①社会教育の推進

・質問

なし

・評価について（庁内評価 C）

妥当3名。

成果指標①は未達成であるものの理由が明確。②は大きく上回った。

・今後の取組について

委員

1.公民館の SNS が見つけ辛い。指定管理者側から見つけたが、探すのが難しいので、探しやすいよう検討しては。

2.地域の繋がりを意識した講座を検討しては。

（例：地域コミュニティから浮いている独身や独居の人向け）

江崎課長

1.意見として受け止める。

2. 参考にさせてもらう。核家族化が進んでいくため、今後必要になる可能性はある。また、社会教育で行くと、コミュニティという面で参考にしたい。

社会教育は幅広い年代向けであり、子供達や柏樹学園はわかりやすいが、中間層に対しても学びたい声があると思う為、そういった声を吸い上げながら行っていきたい。

委員

子供会の減少は町内会存続について重要課題であり、市街地町内会連合会と単位会役員で意見交換をしてみては。

②地域文化の振興

・質問

なし

・評価について（庁内評価 C）

妥当2名。妥当ではない1名。

妥当ではない→B評価

成果指標が目標値を上回っていることから。

・取組について

委員

芽室町は文化が弱いといわれる。消費文化は少ないが、町内の主体的に生み出すものが多様で魅力的で活発。それを切り口で魅力として伝えていったいいのでは？

文化展の出展者同士で交流を持てたら、そこからさらに生まれるものもあると考える。

また、町が文化自体、文化展を支えていることも併せて伝えてほしい。

江崎課長

目立って行われるのが芸能発表等イベントでそう囚われがちだが、多種多様な文化活動をどう引き出せるかという場所の準備、プラットフォーム作りが行政の役割と認識している。

町民活動を拾いながら、文化活動を紹介していくのもいいのかなと思った。

文化という大きい評価では難しい切り口だが、意見を頂きながら広めていきたい。

委員

1. 芽室町は文化活動が活発だと外から入ってきた身で感じる。PTA 活動もしっかりしている評価をもらう。自分たちで何とかしようという文化が根付いている。地元民自身がその評価をしていないのであれば、広報なりで説明が必要だと思う。また、外から入ってきた人が行う方が効果的なのではないかと感じる。

2. 部活動の地域展開も保護者的には気になる。課題が多いことは聞こえてきているが、スポーツ・音楽は文化そのものなのでしっかりやってほしい。

江崎課長

1. 捉え方は人それぞれだが、移住してきた方の声を頂いて納得の部分もある。期待に応えられるよう進めていきたい。

2. 文化活動を取りまとめる文化協会の会員数が減少。ニーズの多種多様化があり、まとまってやっていく時代ではないかも知れないので、支援方法を考えて、文化活動楽しんでもらえるように努めていきたい。

委員

課題としての町民有志による実行委員会組織のメンバーの固定化は時代にそぐわない。

固定化は流れと進歩を止める。地域文化振興のためにも変化を認めるべき。

江崎課長

現在、引き受けてくれている方は貴重である認識の上で、受け手がいないという課題もある

委員

変化を受け入れない雰囲気なのだろうか？

江崎課長

そうではないと考える。偏っていく懸念だと受け取った。

メンバーが固定されると、考えも固定されていく。

考えが寄っていった際には、調整は我々が行うものだと考えている。

委員

文化協会については、会員を募集しても応募がない現状である。敷居が高いのだろうか。

江崎課長

長くやってくれる人も新しい人もどちらも大事であり、多様な意見が必要だと考えている。

③スポーツしやすい環境づくり

・質問

委員

住民意識調査の、町民がスポーツしやすい環境であるの質問にて、10代男の数値が突出して低い。その意見を把握しているか？

江崎課長

意見は把握していない。数値は人数的なばらつきだと認識していた。

委員

世代が下がれば母数が減ることも理解はしているが、このアンケートを数値で見ると若くなれば数値が下がる為、深掘りした方がいいと感じた。

江崎課長

欲しい施設があるのか、何かしたいことがあるか等を聞き取れるタイミングがあれば伺ってみたい。

委員

ゲートボールと若者男子が双極のイメージがあり、ゲートボール推進を頑張れば頑張るほど、満足度が下がる世代があるのでは？目標値の95%を目指すなら他の部分にもスポットライトを当てなければ目標達成が難しいと考える。

江崎課長

次期計画は目標値を現実的な数字に移行していく予定。
80%という数字でも低くはないが、どんどん上げられるようにしていきたい。

委員

他の施策と関連が深い施策であり、あっちを立てればこっちが立たずのような計画の整合性を取りづらいのではないか？

江崎課長

要望すべてを叶えることは難しい。その中で特に、施設の維持管理が経費を圧迫する中で、長寿命化も進めていかなければならない。人口が減っていくことで、施策の対象人口も減っていくため、長期的な計画を考えていきたい。

委員

この施策ではどのように楽しむか等の人に関わるソフト面を整理したうえで、それに伴うハード面の順番で動く認識しているが、ハード面もこの課が主体なのか？

江崎課長

大きい計画自体は都市経営課の計画であり、その中に我々がいる。
施設を8年後にかけてどうしていこうかというのが現在の策定フェーズ。

委員

施設に対し、これから市民がこう使用したい等の有効活用の観点での意見を伝える方法はあるか？

江崎課長

計画時に各団体にしっかり伝わってなかった反省から、利用者団体には周知できるよう、意見を吸い上げられるよう取り組んでいく。構想の中にも反映していきたい。

・評価について（庁内評価C）

妥当1名。妥当ではない2名。

妥当ではない→D 評価 2 名。

目標が高かったことはあるが、①③が大きく目標と乖離し続けている。②は達成していることから維持と判断。

・今後の取組について

委員

5の施策をしっかり進めてほしい

江崎課長

ゲートボールに特化したものになっているが、40 周年の発祥の地杯はブラジルから 80 人、台湾、中国からも来たりと盛り上がりはある。それ以降の大会で急激に下がらないかは懸念している。発祥の地としての役割は後世に伝えていきたい。

また、体育施設自体は恵まれているので、子供を中心に体を動かせる環境づくりを続けていきたい。しかし、費用等の課題もあるため効率的に進めていきたい。なんとか施設維持管理を含めて進行していきたい。

委員

最初の質問で伝えたのが 1 番の思い。

10 代男性の満足度がどこにあるのか。住民が思うスポーツしやすい環境はどこにあるのか。

江崎課長

意見として頂く。原因について探りを入れて行きたい。

委員

個人的には部活動の地域移行展開の絡みが心配。子どもたちが保護者や指導者陣が大変そうで活動し辛いとなっていたら、保護者目線で嫌である。その子供たちの感覚が住民意識調査に表れ始めていたら嫌だと感じる。学校経由で聞いてみる等の別角度から意見を拾うことも必要では。

江崎課長

先生に頼り切りの状態から脱却しなければと考えている。今の芽室の先生は関わっていきたい人が多いのでありがたい。先生たちの協力を得ながら、やりたいスポーツをやれる環境にしていきたい。

長い目の懸念は、人数が必要なスポーツにおいて、町内でチームが組めなくなった時が怖い。鹿追、清水で 3 町で交流しているが、2 町は既に厳しくなってきたと聞いている。

合同になった場合に練習が清水になったりとなると、移動的に厳しいと感じる。

西中と芽中ぐらいの距離なら生徒は通えるが、今後送迎となると難しくなるのが懸念。
地域展開をうまくやっていかなければならない。

委員

団体スポーツも冬のスポーツも心配。
調査結果に表れているのか表れていないのかも心配。

江崎課長

リンクも1シーズン1000万。
そんな中、稼働できるのが1ヶ月あるかないか。
冬休み入ってすぐ使えるようにしたいが、なかなか現実的に厳しい。
オーバルに行ったらどうかと意見もあるが、帯広の学校からの問い合わせも多いと聞いている。スケートの授業自体もできなくなってしまうのではと懸念もある。
スキーの時もあったが道具のレンタルや運ぶ等の問題もあった。
冬の授業は器械体操等に移行することは避けたい。

委員

結局みんなでやろうとなるのは人次第であると思う。
この施策の方向性は環境を整えるのか、人を育てるなのか。
何も体験していないと距離のある施策に感じ、スポーツを広める意識までいくのは難しいと感じる。

江崎課長

自分のやっていない競技は目が行きにくい。
ゲートボールもやったら楽しいので、参入ハードルを下げたい。
色んな競技そうであるが、自分のやっている競技の施設を欲しいと感じると思うが、全て実現は難しい。スポーツが盛んな地域であることもあり、成果指標も何とかしていきたい。生涯スポーツ全般をみて、なんとかニーズを捉えながら前進していきたい。

委員

委員のいう人の部分は、自身も大事だと考える。

江崎課長

色んな人とかかわりの中で社会教育として人づくりに繋がっていく。その先でまちづくりの1つのツール。
この課は自分たちの学習等の価値を上げていく部署だと思う。生活必需ではない為、最初に

予算を削られやすい部署と思うが、税金を投入する意味合いも含めて納得感のある説明をしていきたい。

委員

今まで機会もなかったサッカー等の観戦だったりも積極的に参加し、この事業の意味を理解したい。

委員

やっている側からして、親の立場として人づくりは大事なのはその通りで、深堀したいとなり意見した。

江崎課長

アンケートで拾える部分があれば、拾っていきたい。

委員

別角度で拾いに行くのもありだと思う。

一流を見て聞いて学ぶの項目で子供達がたくさん参加しているのに、意識調査の結果に反映されてこない。

江崎課長

文化の数値も7ポイント上がるというのも要因が不明瞭。

毎年違う人がアンケートに答えるという性質上の要因も考えられる。

文化に関しては30や40ポイントの時代もあった為、現在の数値も伸びては来ている。社会教育も文化も頑張っているが、スポーツが一番反響を感じる。しかし、数値として伸びていかない。実感と実態との乖離が難しい。

みなさんの多様な意見を聞きながらやっていきたい。

税金を投入しているため、有効に使っていく中で、町民が喜んでくれるよう様々なところで楽しんでもらえるように頑張りたい。

委員

ゲートボールの普及振興には楽しみながらゲームを行うことも重要。子供たちの人口を増やす方法を改めて1つずつ改革していかなければならないと考える。

委員

この施策はハード面だけでなく、人材育成というソフト面を向いた施策だと考えると、成果指標もそれに対応したものがいいのでは。

終了